

## 連盟・現場から見たアイスホッケー発展に向けた現状と課題

### Present and problem of Ice Hockey for development seen from association and team

1K08B217-2 安田 亜実

指導教員 主査 原田宗彦 先生 副査 松岡宏高 先生

#### 【緒言】

2008年西武プリンスラビッツの廃部を機に日本アイスホッケー界は低迷の途をたどっている。ここ数年で競技人口は低迷し、トップリーグであるアジアリーグは観客数も伸び悩んでいる。しかし、今後アイスホッケー界が発展していくためには競技人口の増加は必ず必要であり、みるスポーツとしての普及も目指していくべきである。本研究は、する・みる両面から見た連盟そしてチーム監督の立場の意見を明らかにし、比較することで、今後のアイスホッケー界発展へのアイデアを提示することを目的とした。

#### 【研究方法】

本研究は、するスポーツでは日本アイスホッケー連盟・アジアリーグチーム監督、そしてみるスポーツでは東京都アイスホッケー連盟・大学チーム監督にインタビュー調査を実施した。連盟・チーム監督に日本アイスホッケー界が発展するための質問項目を設定し、結果を図式化して両者の意見を比較した。

#### 【インタビュー結果】

##### ①するスポーツ

まず、筆者はするスポーツへの仮説として北日本からの競技人口増加を目指し、リンクの多さ・実業団チームの存在を活かした更なる育成プログラムの設置を目指すべきだとした。

その仮説に対し、連盟 A 氏からはオリンピックへの参加ができていないことをはじめ、アジアリーグなど開催地が限定されていること、そして指導者の不足やマネジメント力がないために競技レベルが低下していることが問題としてあがり、大会日程から参加資格まで根本からの見直し、そしてエリート教育の見直しを図るべきだとした。

一方で、チーム監督 B 氏からはリンク数の少なさ、試合数の少なさなどプレー環境の悪さそして観戦機会が少ないことを問題とした上で、連盟には資金集めをすることを期待しており、国のサポートによりリンクを増設すること、そして選手の経験

値をあげるため、そして全国的にアイスホッケーに触れる機会を増やすためにも試合数を増やすことを課題としてあげた。

##### ②みるスポーツ

連盟 C 氏からは、ボランティアで運営している東京都連盟の運営体制の悪さが問題点として主にあがった一方で、チーム監督 D 氏からは現在の東京都連盟に対し大学リーグにおいて抜本的な改革を必要とし、新規顧客の獲得から質の高さを目指したリーグ体制の運営を求めていることが分かった。

#### 【考察】

するスポーツにおいて、発展のためには、オリンピック出場に向けた代表チームの強化から生涯スポーツとしてプレーする大学生などが参加できる大会を増やすなど「各セッションでの活躍の場を増やすこと」、そして北日本だけでなく全国的に「観戦機会を増やすこと」この 2 点に力を入れていくべきだと考えた。次に、みるスポーツにおいては、関東でのアイスホッケー普及のために大学リーグの盛上げは重要であり、東京都アイスホッケー連盟で大会運営に従事してくれる人材、そして大学アイスホッケー界を抜本的に改革する人材が必要である。

#### 【日本アイスホッケー界への提言】

日本アイスホッケー界が発展していくためには「抜本的な改革」が必ず必要であるということである。アイスホッケーに関わる人間が、前例にとらわれずに、大胆に改革していくこと、そしてすべてのことを改善していくにあたって、アイスホッケー界を変えてやる、という熱い気持ちをもって臨んでいくこと、それが今一番重要である。そしてするスポーツを向上していくためには競技者を増やしていくために観戦の機会を増やすなどみるスポーツとしての考え方も必要であり、みるスポーツを向上していくためにはするスポーツとして競技レベルをあげること、競技者を増やしていくことも重要である。